

発行所 社団法人 全国ベビーシッター協会
〒160-0017 東京都新宿区左門町6-17YSKビル7F
TEL:03-5363-7455 FAX:03-5363-7456
URL:http://www.netcircus.com/babysitter
発行人 網野武博
編集 広報編集委員会
発行年月日 2009年(平成21年)6月
会員交流事業・広報啓発事業・調査研究事業・研修事業・ベビーシッター育児支援事業・双生児家庭育児支援事業・資格認定制度事業等、これらの事業を通してベビーシッターは21世紀に貢献しています。

厚生労働省認可 社団法人 全国ベビーシッター協会
All-japan Babysitter Association.

「住み良さ日本一の元気県」の実現を目指して

知事対談シリーズ 20



3月25日、五重塔で知られる瑠璃光寺に香山を挟んで隣接している山口県庁に、二井関成山口県知事を当協会名誉会長 巷野悟郎が訪問、対談をさせていただきました。なごやかな子育て談義に、満開の桜も微笑んでいるようでした。

山口県 二井関成 知事

昭和18年3月生まれ。昭和41年3月 東京大学法学部卒業。自治省(現総務省)入省後、消防大学校長崎県などでの勤務を経て、山口県総務部長、出納帳を経た後、平成8年8月 山口県知事に就任。現4期目。趣味は読書とスポーツ(特に野球)。座右の銘は「人生の舞台は常に将来にあり(尾崎行雄)」

協会の研修ノウハウを全国へ
会長：平成3年に社団法人全国ベビーシッター協会として設立されて、現在では全国で100社以上のベビーシッター会社が、家庭での子育てを応援しております。山口県にも協会正会員の事業者があり、さまざまな場面で活躍しております。
知事：精力的に活動をされているので、よく存じておりますよ。
会長：協会では、ベビーシッターの質の向上を図るために全国で研修会を行っております。ベビーシッターは各家庭に入り1対1で子育てをするので、保育士のような施設型の研修とは異なる点があります。年齢も幅広く新生児から小学生・中学生以上の子どもをみることもあり、病(後)児や、お母さんたちの心のサポートなども学んでいます。この研修が、平成21年度から国庫補助事業となりました。
知事：利用者の家庭で子どものお世話をするので、から、より多くの深い知識が必要でしょうね。
会長：新任研修と現任研修を各3日間受講し実務を経た後に、毎年1回、各地で試験を実施し、合格者に「認定ベビーシッター」資格を付与しております。また保育士養成課程のある大学などで在宅保育に関する2単位を履修した卒業生にも資格が与えられる指定校制度も設けて、年々多数の有資格者が出ており、全体で約5000人を輩出してあります。
知事：山口県内にも指定校がありますね。県では、多様な保育ニーズに対応して、保育所での一時保育な

どの特別保育を充実させてきているので、今のところはベビーシッターの利用はあまり多くはないようです。今後、働く女性が増えていくでしょうから、心強いサポーターとして、時間や場所など希望に応じて柔軟に見ていただけるベビーシッターさんに期待をしております。
会長：ありがとうございます。保育ママが制度化されましたが、同じく家庭内で保育をするという点で、協会の研修は保育ママさん達にも適しています。協会のノウハウを生かして、家庭的保育の重要性和質の向上に努めていきたいと考えておりますので、山口県の研修にも導入していただければお役に立てると思います。
お父さんと子どもたちの触れあい
会長：最近はお父さんたちが増えてきて、いい傾向だと思います。
知事：私の子ども達が小さかった頃は、自治省に勤務しており、普段は大変忙しくて妻に育児を任せっきりでした。ただ、夜、寝かし付けるのは、私の仕事でしたね。
会長：それが一番難しいですよ(笑)。
知事：当時、我流で考えたのですが、自分が仰向け



知事：ありがとうございます。山口県は、瀬戸内海国立公園に加え三つの国定公園があり、金子みすゞ、中原中也、種田山頭火など特色のある文学者も輩出しています。また、吉田松陰、高杉晋作など明治維新の胎動の地でもあります。
「はじめてなのに、なつかしい」という観光のキャッチフレーズがあるのですが、一度お出でいただくと、多彩でバランスのとれた住みよ県だということがわかっていただけると思います。

になって胸やおなかの上に、子どもをうつ伏せにして寝かせるんです。親子の肌が触れ合って、心臓の鼓動がなんとなく心地よさそう。そうすると、すぐに、寝てしまうのです。
会長：それは素晴らしい！父親のカンガルーケアの最先端でしたね。親子間の愛着の形成や、赤ちゃんだけでなくお母さんの気持ちの安定にも有効で、1980年頃から提唱されていたんですよ。
知事：それはうれし。自分の子育てに自信が持てましたよ(笑)。あとは、父親しかできないこと、例えば、自転車の練習をするときも私の出番でした。野球が大好きなので、休みの日にはキャッチボールもよくやりました。
会長：最近の厚生労働省の調査で、休日に、父親が幼児期の子どもと過ごす時間が長い程、大きくなったときに「我慢すること」「落ち着いて話を聞くこと」ができる子どもの割合が高くなるなど、良好に育つ傾向があると発表されていきました。家族が一緒に過ごす時間の大切さを見直したいものです。
知事：子どもだけでなく、親も我慢強くなりましたよ(笑)。家庭は、子どもがあいさつや早寝早起きなどの生活習慣を身に付けるための大切な場所です。核家族化の進行や働く女性の増加、生活スタイルの多様化などにより、親子で過ごす時間が減少しており、家族の絆を深めることがますます重要となっております。
こうした中、山口県では、平成19年10月に制定した「子育て文化創造条例」では、毎月第3日曜日を標準とした「家庭の日」を定め、県民の皆様や事業者とともに家族の絆を深める取組を進めています。



小児科医 巷野 悟郎 名誉会長
東京大学医学部卒業 小児科医
都立駒込病院副院長、都立府中病院院長、東京家政大学教授、聖徳大学児童学科教授を経て現在
社団法人 全国ベビーシッター協会名誉会長
社団法人母子保健推進会議会長
(主な著書)
「赤ちゃんが書かせてくれた～小児科医からママへの手紙」(赤ちゃんとママ社)
「保健保育の基礎知識」(編著/小児医事出版社) など多数

最後に、(社)全国ベビーシッター協会への応援メッセージをお願いします。
知事：今後とも、ベビーシッターの質の向上に取り組まれるようお願いいたします。子育てを一緒に応援するベビーシッター協会のますますの御発展を期待しております。
会長：本日は、ありがとうございました。



山口県の子育てへの取り組みは素晴らしいですね。
忙しい日々の中、子どもとのふれあいは、気をつけていましたね。
そんな自分の経験をお話しいかしていただきます。
会長：2011年には山口県体・全国障害者スポーツ大会も行われる山口は、ますます「おいでませ山口」ですね。
知事：そうですね。2015年には、約3万人の青少年が参加するポイスカウトの世界最大の祭典「世界スカウトジャンボリー」も開催されます。
多くの青少年の交流等を通じて「住み良さ日本一の元気山口」を国内外に発信できるよう、準備を進めています。